

女性にもっと身近なインフラを

国土交通省 中国地方整備局 企画部 企画課

1. はじめに

中国地方整備局は、競争力のある地域経済社会の再構築，安全で誰もが安心して暮らせる地域づくり，中国地方の多彩な文化と自然を活かした豊かで快適な暮らし・社会の創造，交流・連携による一体的で活力のある地域づくりを目指し，インフラの整備・管理等を行っている。これを実現するためには地域の方々にインフラ施設と生活のつながりを感じていただき，その意義をより深くご理解いただくことが必要である。そのため，中国地方整備局では「女性」をキーワードにいくつかの取り組みを開始した。ここでは，「女性」によるよりよいインフラの整備・管理および渉外活動，また，「女性」に向けた広報の取り組みについて紹介する。

2. 「くらしでミーティング」の立ち上げ

平成23年に総務省が実施した社会生活基本調査によると，男女が1日のうち仕事・家事に充てる時間をみると，共働き世帯においても，夫に比べ妻が家事をする時間が3時間以上多いという結果となった。このことから，女性は「暮らしの担

表―1 1日のうち仕事・家事に充てる時間―週全体
(時間.分)

		共働き世帯	夫が有業で妻が無職の世帯
夫	仕事等	8.30	8.22
	家事	0.12	0.09
	育児	0.12	0.19
妻	仕事等	4.34	0.04
	家事	3.27	4.43
	育児	0.45	2.01

(平成23年社会生活基本調査(総務省)より作成)

い手」といえる。

道路や河川の整備をする際には，女性も含めた地域住民のご意見を伺うのだが，よりきめ細やかなインフラの整備・管理等を行うためには，整備する側に暮らしの担い手としての女性の視点を入れ込むことが重要である。このような考えから，中国地方整備局では，平成26年6月18日，インフラ整備・管理等に携わる女性職員から構成される「くらしでミーティング」を立ち上げた。

くらしでミーティングは，「暮らしの担い手」である女性の感性を活かしたよりよいインフラ整備・管理(防災・交通)および渉外活動(広報・地域連携)を行うための，組織の意識向上ならびに女性の情報共有を目的としている。

構成は図―1に示すとおりである。ボードメンバーは，メンバーの代表として年度ごとに設定し

くらしてミーティング構成

〈メンバー〉

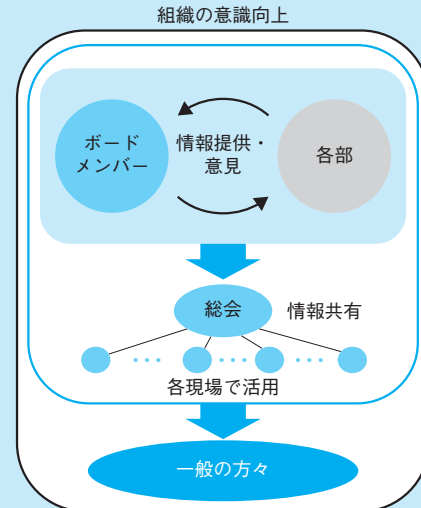
中国地方整備局のインフラ整備・管理および渉外活動に携わる職員
(50名)
※技術系女性職員+インフラ整備等に携わる事務系女性職員

〈ボードメンバー〉

メンバーの代表者 (16名)
※取り組みに関する議論をするとともに、総会の運営、必要に応じて活動を実施

〈ミーティング総会〉

年に1回情報共有



図一 1 くらしてミーティング概要

たくらしてミーティングのテーマ等について議論するとともに、総会の運営および渉外活動を行うこととしている。

今年度においては、「生活に身近なインフラを整備している国土交通省がどんな仕事をしているかもっと知ってほしい」という思いから、テーマを「土木の魅力発信（わかりやすい広報）」とした。今年度の取り組み内容を決定するに当たっては、ミーティングメンバーからアンケートにより広報の課題や新たな取り組みに関する意見を収集し、ボードメンバーミーティングにより具体的内容を決定した。

6月18日に開催されたくらしてミーティング総会においては、ボードメンバーが行う今年度の活動予定を情報共有するとともに、外部講師をお招きし、女性を対象にした広報に関するご講演をいただいた。

総会には35名の女性職員が出席したが、通常業務ではつながりのないメンバーが集まることで、新たな女性同士のネットワーク形成の一助にもなったようである。

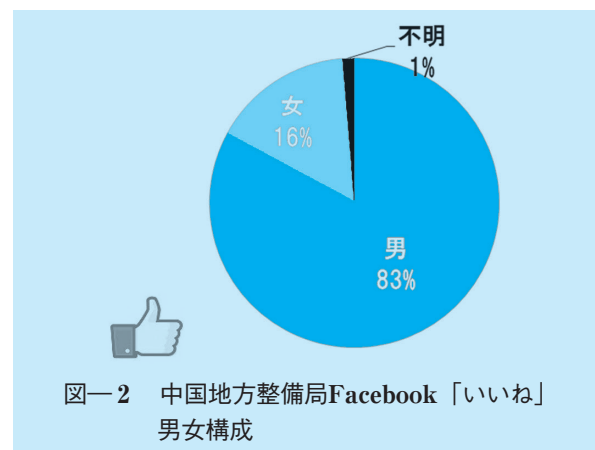
3. 「女性」に向けた広報の取り組み

(1) くらしてミーティングの取り組み

くらしてミーティングにおいては、今年度、女子学生および20～30代の女性をターゲットとして、主として、Facebookの活用、高専女子フォーラムへの参加、くらしてミーティングホームページの作成を行うこととした。

1) Facebookの活用

中国地方整備局では、平成25年5月からFacebookを運営しており、整備局内の災害、インフラ整備・管理、イベントなど、さまざまな情



図一 2 中国地方整備局Facebook「いいね」男女構成

報を発信している。整備局Facebookの「いいね」の男女構成を見ると、男性83%、女性16%となっており、女性へのアプローチが必要であることが明確になった。そこで、くらしでミーティングでは、女性職員により、暮らしの担い手としての女性の目線での記事を投稿することとした。例えば、家族で楽しめる季節の催しや河川等にある遊び場の情報、写真スポット紹介、道路整備の豆知識（「これでヒールも挟まらない！ 細めで滑り止め付きグレーチング」）など、女性やその家族に興味を持っていただけそうな情報を発信していく予定である。

このような生活に近い情報を発信することで、女性に整備局やインフラ施設に対してまずは興味を持っていただき、続いて、理解につなげていただくことを期待している。

2) 高専女子フォーラムへの参加

次世代の土木の担い手確保を目指し、高等専門学校に通う若い女性に対し、早い段階からアプローチするため、平成26年12月に呉高等専門学校で

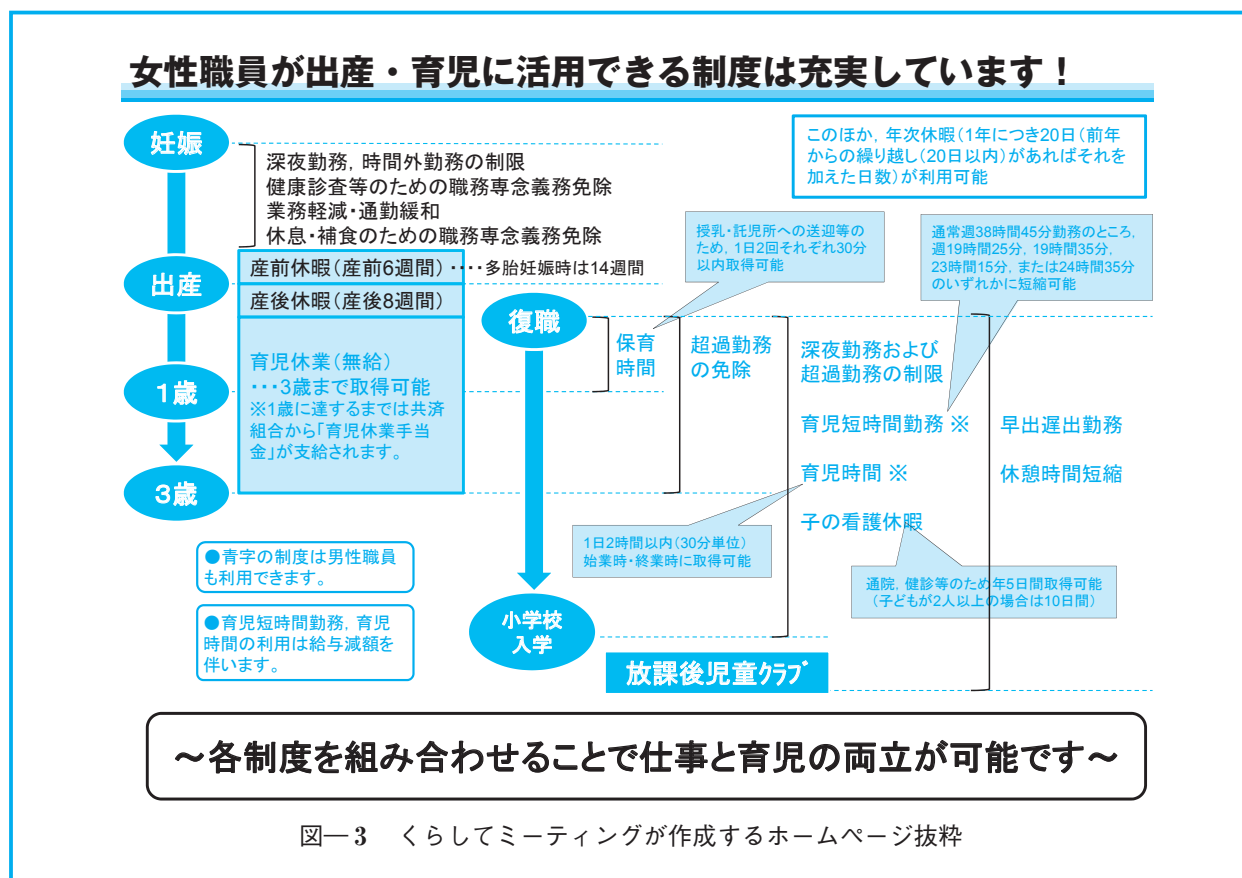
開催される「高専女子フォーラムin中国」への参加を検討することとした。ここでは、くらしでミーティングとして、中国地方整備局で働く女性職員の職務内容等を紹介するポスター展示、ボードメンバーによる解説等を行うことを検討している。

高専女子フォーラムは、地域の中学生とその保護者も参加可能であり、より若い世代へのPRにつながることも期待している。

3) くらしでミーティングホームページの作成

リクルート活動の一環として、土木の現場で輝いている整備局の女性職員の姿や育児休暇制度等を紹介するホームページを作成することとした。

女性職員の紹介では、年代、職務の異なる女性職員が仕事のやり甲斐や家庭と仕事の両立、プライベートの過ごし方などを紹介する。また、育児休業制度等の紹介では、どのような制度が活用できるのかを示すとともに、女性職員が実際にどのような場合にどのような制度を活用したのかを紹介している（図—3）。



図—3 くらしでミーティングが作成するホームページ抜粋

これらの情報を外部向けに発信することで、学生に対してより身近な職員の姿を感じてもらうとともに、充実した制度の活用により仕事と家庭の両立が可能であることを理解してもらい、安心して整備局の門戸を叩いてもらえるようになることを期待している。また、整備局内の職員においても、育休制度等の活用に対する理解が深まることを期待している。

(2) 現場での取り組み

くらしでミーティングのような整備局全体の取り組みが進む一方、現場においても女性に着目した特徴のある取り組みが進んでいる。平成26年1月、女性限定のモニターツアーにおいて、島根県の斐伊川水系にある尾原ダムがツアーに組み込まれた。

1) 経緯

島根県雲南地域（奥出雲町、雲南市、飯南町）では、この地域の商工会、JA、市町の女性職員が「おくいずも女子旅つくる！委員会」（以下「委員会」という）を立ち上げ、「女性」をターゲットにしたフリーペーパー「Okutabi」の作成等により、地域のPRを行っている。

委員会が広島的女性を対象に実施したアンケートでは、広島的女性が島根県に求めるものは①温泉、②食、③自然であった。Okutabiでは、これらの情報をふんだんに盛り込み、デザインも若い女性が思わず手に取りたくなるものとなっている。これまでに2号・計6万部が発行されたが、共に約5カ月で配布が終了し、さらに問い合わせ

も来るなど、若い女性を中心に好評を得ているという。

この雲南地域においては、尾原ダムおよび志津見ダムの2ダムを中国地方整備局出雲河川事務所が管理している。出雲河川事務所では、女性に対し、ダムにもっと興味を持ってもらおうと、Okutabiへのダム情報の掲載を依頼し、イベント紹介ページにおいてダム関連イベントをコメント付きで紹介していただくこととなった。

また、出雲河川事務所では、委員会メンバーに対しダムの見学会を実施し、平成26年1月に広島的女性を対象に開催される冬期のOkutabiモニターツアーにダムを盛り込んでもらうよう働きかけを行った。

その結果、次に紹介するとおり、温泉、グルメ、ものづくり体験、リラクゼーション等、女性にとっては非常に魅力的な内容となっている行程の中に「尾原ダム」が組み込まれることとなった（表—2）。

2) インフラ施設と女性

まず、モニターツアーに参加した女性の皆さんの感想を紹介したい。

- ・ダムが私たちの生活にとっても役立っていることを初めて知り感銘
- ・遊園地のアトラクションみたいでワクワクした。
- ・コンクリートの壁が迫力があつた。
- ・周囲の環境（水道、水音など）に配慮し、環境負荷を極力抑えた設計をしている点に強く感銘

表—2 モニターツアーの行程

【1日目】

JR広島駅→陶芸体験→農家レストランでのバイキング→尾原ダム見学→稲田神社宮司のお話（お茶とお菓子）→道の駅でお買い物→亀嵩温泉（フットケア講座、どぶろく鍋、宿泊）

【2日目】

ガラス窯吹きごはん体験→黒壇を使ったマイ箸作り→ビューティーランチ→たたら製鉄師・絲原家での着物着付・お抹茶→JR広島駅



写真—2 モニターツアー参加者と尾原ダム

・行く前はツアーの中で興味が無かったが、行ってみたらインパクトが大きくてスタッフの人もわかりやすく説明してくれて楽しく見学できた。

・晴れて天気の良い日にサイクリングをしながらダムの上を通ってみたい。

このように、ダムに足を運んでいただくことができれば、その魅力に感動する女性はいく人ということがわかった。これらの感想やこれまでに委員会メンバーからいただいた意見から、女性がダムに感動するポイントは次のようにまとめられる。

- ① 目前にそびえるコンクリート構造物の圧倒的な存在感から得られる、一気に湧き上がる感動
- ② 堤体内部の見学等、ここでしか見られない

もの・経験できないものに対する感動

- ③ ダム建設の歴史や地域の想いから得られる、じわじわと湧き上がる感動

これは、他のインフラ施設にも共通するものだろう。女性に対しても、さまざまなインフラについて知るきっかけを作れば、そこから感動・興味につながり、さらに理解につながるが大いに期待できる。

ただし、きっかけづくりを成功させるためには、ターゲットの明確化およびプロファイリングの実施、そして、それに応じた企画の立案と広報媒体の選択を行うことが重要である。フリーペーパーのOkutabiが若い女性を中心に評価を得ているのは、これを徹底して行ったことが大きいのではないだろうか。

また、相手が何を求めているのか、受け手側の視点で内容、言葉遣い等を考えることが伝わる広報の重要なポイントであろう。そのような観点から、女性に向けた広報は女性職員の感性を活かすことが成功の要因になると考える。

4. おわりに

インフラは生活を支えるものである。情報を発信する側、受ける側、双方において「暮らしの担い手」である「女性」の感性に着目することで、インフラの意義がより「伝わる」ものになると考える。

これをより効果的かつ継続的に行うには、くらししてミーティングメンバーが楽しみながら活動を行うことであり、そのような環境を整えることも、今後、重要なポイントとなるであろう。